

令和 8 年度
鹿児島女子短期大学
自己点検・評価報告書

令和 8 年 6 月

はじめに

令和 8 年度自己点検・評価報告書は、「志學館未来計画（2022-2027）」下での「2025 年度事業計画」の進捗状況の検証をおこなった。

目次

1. 令和 7 年度 事業計画の達成状況
 - 1.1 総評
 - 1.2 各基本計画の達成状況
 - 1.3 KPI の達成状況
2. 大学・短期大学評価基準による点検・評価活動
令和 3 年度自己点検・評価報告書に記載した課題への取り組み

1. 令和7年度 事業計画の達成状況

1.1 総評

志學館学園第4次経営計画「志學館未来計画 2022-2027」（以下、第4次計画）を受け、令和4年度から始まった事業計画は「Ⅰ 教育研究活動」、「Ⅱ 学生支援」、「Ⅲ 管理運営」、「Ⅳ 学生受入（学生募集）」、「Ⅴ 社会貢献」の5つの基本計画からなる。達成度については、評価基準をS（達成率 101%～）、A（達成率 80～100%）、B（達成率 50%～79%）、C（達成率 20%～49%）、D（達成率 0%～19%）及びN（環境の変化等で施策を廃止した）としている。

令和7年度の事業計画別の達成状況は表1の通りである。達成度Sの項目は全体82項目の3.7%、達成度Aは76.8%、達成度Bは15.8%、達成度Cは1.2%、達成度Dは1.2%であった。前年度の達成度と比較すると、達成度Aの比率が高くなり、達成度Bの比率が低くなっている。3年度も同様の傾向であったことから、基本的には計画通りに事業が達成できていると思われる。また、本年度をもって事業計画としては達成され、今後委員会として毎年度の活動計画として進行していくこととなった施策もある（6件）ため、次年度は事業計画総数としては少し減少することとなる。新規としての事業計画もある（1件）。基本的には事業計画に対しての成果のみがコメントとして盛り込まれており、それを受けて次年度の具体的な目標がたてられているが、文面から読み取りにくい項目もある。第5次の経営計画で改善を図りたい。

表1 令和7年度 事業計画 達成状況（数値の下段は令和6年度事業計画達成状況）

達成度 基本計画	S	A	B	C	D	N	項目数
	101%～	80～100%	50～79%	20～49%	0～19%	—	計
Ⅰ 教育研究活動	0 (0)	19 (20)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	25 (25)
Ⅱ 学生支援	1 (0)	18 (19)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	21 (21)
Ⅲ 管理運営	0 (0)	16 (10)	4 (10)	0 (2)	0 (0)	1 (1)	21 (23)
Ⅳ 学生受入	1 (1)	5 (6)	1 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	8 (9)
Ⅴ 社会貢献	1 (1)	4 (3)	2 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)
項目数 計	3 (2)	63 (58)	13 (18)	1 (3)	1 (2)	1 (2)	82 (85)
(%)	3.7% (2.4%)	76.8% (68.2%)	15.8% (21.1%)	1.2% (3.5%)	1.2% (2.4%)	1.2% (2.4%)	100% (100.0%)

1.2 各基本計画の進捗状況

Ⅰ. 教育研究活動

取組戦略6分野における取組施策23項目にて25の具体的目標を掲げ、達成度はA：19項目、B：4項目、C：1項目、N：1項目である。戦略6分別では「1 学びの質の向上」は目標11項目中達成度Aが9項目、達成度Bが1項目、達成度Cが1項目、「2 教育課程の検証」は目標5項目すべて達成度

A、「3 学びの可視化に基づく教育方法の検証」は目標 6 項目のうち、達成度 A が 3 項目、達成度 B が 2 項目、達成度 N が 1 項目、「4 ICT 化の充実」は目標 2 項目すべて達成度 A が 2 項目、「5 キャリア教育・支援の充実」は目標 1 項目の達成度 B、「6 研究活動の充実」は目標 1 項目の達成度 A となっている。全体的に目標を達成できていると考えられる。達成度 C となった項目「1 学びの質の向上」の「「学びの自己評価表」の記入内容を鑑みて適切な学習カリキュラムを検討すると共に、運用等に関して修正すべき項目がないかなど再点検する」に関しては、本年度達成度 N としてあげた「3 学びの可視化に基づく教育方法の検証」の施策「量的・質的データに基づく学習成果を評価する仕組みの確立」の部分で教学マネジメント会議の事業計画の中にある「④学習成果に関する共通認識に基づいて、学習成果の測定・評価方法について検討する」の項目で、次年度教養学科でルーブリック型評価表を用いて、ディプロマ・サプリメント作成することを試行する流れに統合されることとなる。総評でも述べたが本年度で事業計画としての役目を終え活動計画へ落とし込んでいく項目が多い部分でもある。必要に応じて新たな事業計画として考えていかなければならない課題がないかについても頭に入れておく必要があると思う。

II. 学生支援

取組戦略 6 分野における取組施策 19 項目にて 21 の具体的目標を掲げ、達成度は S:1 項目、A:18 項目、B:2 項目である。戦略 6 分野別では「1 多様な学生に対する支援の充実」は、目標 4 項目のうち、達成度 S が 1 項目、達成度 A が 2 項目、達成度 B が 1 項目、「2 特待性・奨学生制度の充実」は目標 2 項目すべて達成度 A。「3 学習環境の充実」は目標 2 項目すべて達成度 A。「4 進路支援の充実」は、目標 5 項目すべて達成度 A。「5 進路支援体制の充実」は、目標 4 項目すべて達成度 A。「6 安全かつエコロジカルな機能性の高い施設・設備の充実」は、達成度 A:3 項目、達成度 B:1 項目である。戦略「1 多様な学生に対する支援の充実」の「FD や IR 等と連携した学力の実態把握及び教員への周知とその結果をもとにした教育課程見直しのための検討」については整備が終わり委員会の活動計画へ落とし込まれることとなった。達成度 S となった「1 多様な学生に対する支援の充実」の「学生の満足度・ニーズに基づく生活支援、学修支援の充実」に関しては、今後の学友会の在り方について抜本的改革を行ったことによる評価である。今後持続可能な視点を備えた学内行事、サークル活動、学友会活動の検討や支援につながっていくと期待できる。

III. 管理運営

取組戦略 10 分野における取組施策 20 項目にて 20 の具体的目標を掲げ、達成度 A:16 項目、B:4 項目である。2025 年度の計画で最も進んだ基本計画であった。特に「7 学内ブランディングの構築」は研修会を行い、建学の精神の再解釈に基づくブランディングの推進がなされ、次年度以降の具体策等の構築となった。また、達成度 B となった施策も実施途中の為となっている施策が多く、来年度以降の具体的な目標にその推進が記載されていることから今後の組織改善につながっていくと期待できる。達成度 N となっている「2 業務改善。効率化の推進による業務生産性の向上」の「システム導入の検討・実施」に関しては前年度「学納金収受システムと連携した入学手続システムは本部で検討中。次年度導入予定で検討中。N 評価とする」という流れを受けて項目自体がなくなった部分である。

IV. 学生受入（学生募集）

取組戦略2分野における取組施策7項目にて8の具体的目標を掲げ、達成度S:1項目、達成度A:5項目、達成度B:1項目、達成度D:1項目である。達成度Sは取組戦略「2 入学定員の充足」の「外部環境の変化に対応する適切な対応」の項目である。前年度に引き続き入学金減免制度の新設、個別相談会の増加による社会人入学生の門戸の整備等が挙げられる。達成度Dとなった「同窓会との連携強化・推進」は入試制度に重きを置いた活動と本年度はなかったためである。達成度Bとなった「ネットコミュニケーションツールの充実」はInstagramアカウントに着眼した目標設定となったためである。高校生とその保護者に向けた広報活動としてはオープンキャンパスの改革等を含め充実してきているのが現状であり、順調に進捗していると思われる。

V. 社会貢献

取組戦略3分野における取組施策7項目にて7の具体的目標を掲げ、達成度S:1項目、達成度A:4項目、達成度B:2項目である。達成度Sは昨年同様取組戦略2「地域創生・連携」における目標「自治体・事業所等との連携の推進」である。しかしながら、連携活動の課題や改善点に新たな問題点も見つかっており、次年度の課題となっている。一方で新たな内容の検討を要する施策があり、達成度Bとなった「2 地域創生・連携」の「学生ボランティア推進組織「絆工房シオンちゃん」の地域連携活動への動員」と「3 卒業生との連携」の「リカレント教育の継続的な実施と、新たな分野における内容の検討」の2項目はまさにその最たるものであると思われる。次年度の目標にその内容検討が盛り込まれておりしっかりとした検討を期待する。

1.3 KPIの達成状況

KPIの達成状況を表2に示した。

表2：KPIの達成状況（数値の下段は令和6年度KPI達成状況）

基本計画	KPI		
	項 目	R7 年度目標値	達成状況
I 教育研究活動	学生満足度（授業）	80% (80%)	93% (93.5%)
II 学生支援	学生満足度（キャンパスライフ等）	80% (80%)	96.7% (95.6%)
	就職率	97% (97%)	97.3% (98.4%)
	県内就職率	80% (80)	86.9% (82.0)
III 管理運営	外部資金申請数	5件以上 (5件以上)	7件 (9件)
	地元自治体、企業等との共同研究及び受託研究	3件以上 (3件以上)	3件 (3件)
IV 学生受入	入学定員充足率	100% (100%)	107% (71.9%)

	県内の高校生の入学率	90%以上 (90%以上)	95.7% (92.6%)
V 地域貢献	年間公開講座開講数	10 件 (10 件)	15 件 (13 件)
	地元ボランティア幹旋件数	15 件 (15 件)	44 件 (21 件)
	自治体との連携活動	30 件 (30 件)	68 件 (80 件)
	企業・その他団体との連携活動	5 件 (5 件)	100 件 (57 件)

KPI 目標値は、項目全てで達成できた。これは各人、委員会等に置いて目標をしっかりと見据えて日々取り組んでいただいた成果だと考えられる。次年度も設定した目標を達成できるよう、PDCA のサイクルをしっかりと意識して取り組んでいただきたい。

2. 大学・短期大学評価基準による点検・評価活動

令和3年度自己点検・評価報告書に記載した課題への取り組み

一般財団法人 大学・短期大学基準協会による認証評価を令和3年度に受審し、適格と認定された。認証評価では「向上・充実のための課題」、「早急に改善を要すると判断される事項」ともなかったが、令和3年度自己点検・評価活動の際に抽出された課題を『令和3年度 自己点検・評価報告書』に記載している。その課題の多くは第4次計画で取り組んでいる。（下表には基本計画＞取組戦略＞戦略の具体的な取組内容＞施策の順に記載。取組戦略で複数の具体的内容を含むものについては取組戦略レベルの記載としている）。

課題について、令和7年度の取組状況を以下に記載する（表3）。

表3：令和7年度の取組状況

『令和3年度 自己点検・評価報告書』記載の課題	第4次計画の項目および ■令和7年度の目標 など	令和7年度の取組状況
【I-A 建学の精神】		
・地域・社会への貢献については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な取り組みが中止・活動縮小を余儀なくされている。このような状況下でも可能な地域との連携方法を検討する。	【志学館未来計画 2022-2027】 ・V社会貢献＞2 地域創生・連携 ＞③社会情勢に対応した連携方法の開発＞a) 災害・感染症発生時の地域連携方法の開発 ■危機管理マニュアルの改訂	従来の危機管理マニュアルを抜本的に見直し、リスク管理マニュアルの作成作業を進めている。
【I-B 教育の効果】		
・法令や各種資格に係る教育課程・養成課程の見直しが進められる中で、三	【志学館未来計画 2022-2027】 ・Ⅲ管理運営＞1 政策・制度変更等への的確な対応＞①政策・制	運営会議：7月教育懇談会、昨年度2月の地元事業所との情報交換会で収集した意見を教授会

つのポリシーについてもそれに対応した見直しを検討していく。	度変更等への的確な対応>b)法令や各種免許・資格に対応した3ポリシーの検証 ■生活：3ポリシーの適格性の検証とそれに基づいた改訂 運営会議：教育懇談会、地元事業所との情報交換会などの外部意見を参考にしたポリシーの検証	で共有し、学科・専攻で3Pの検証、教育課程の見直し等に利用した。
【I-C 内部質保証】		
a) 教員が自分の担当科目において学習成果の習得を意識して授業を実施するために、教員の意識向上を図る。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅲ管理運営>4 FD・SDの推進 >①FD・SDの推進と学内研修体制の充実>a)学習成果の修得を意識した授業実施のためのFD活動の充実 ■学科主体で取り組むこととなっていることから、学科より提出された問題点などエビデンスを残すと共に、共通の問題点などについては必要に応じてFD研修会などで検討する。	学科から提出された授業上の問題点を整理・記録し、それに基づきFD研修会を企画、実施した。学科主体での取り組みの成果を確認でき、今後の授業改善の基盤となった。
b) 学生が学習成果の習得を意識して授業に臨むため、学生に対する履修指導等の充実を図る。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅰ教育研究活動>1学びの質の向上>②学習支援・履修指導の充実>a)学習成果の修得を意識した履修指導の充実 ■1：GPA等を用いた履修指導の充実とその検証	成績不振者のGPA値をもとに年二度成績不振者の追跡を行い、教授会で報告、指導教員による指導およびユニバプロファイルへの記録入力を周知した。指導に基づく成績変化の追跡も行った。今後も同様に取り組むサイクルが形成されたため、移行活動計画として取り組む内容とする。
【II-A 教育課程】		
・新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった取組が複数あった。ICTのさらなる活用など「ウィズ・コロナ社会」「ポスト・コロナ社会」を見据えた教育の実施体	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅰ教育研究活動>4 ICT化の推進>①ICT環境の充実>a)ICT端末および環境の充実 ■学生に対してBYODに関する調査を実施し、課題を探ると共に環境面での改善も図ると共に、	BYODに関する学生調査は実施しなかったものの、授業での端末利用状況や教員の意見から、現状では大きな課題は確認されなかった。また、Classroom等のICTツールは教員間で定着してきたことから、今年度は生成AI

制を整備する必要がある。	教職員に対しては、Classroom などの使用法に関する講習会を実施して行う。	の教育的活用をテーマとして全体FD研修会を実施した。教員のICT技術向上に向けた取り組みはおおむね達成できた。
	・Ⅱ学生支援＞3 学習環境の充実 ＞①ICT 環境の充実＞a) ICT 端末および環境の充実 ■1：学内でのICTを活用した授業の推進、事例の共有 ■2：Unipa、GoogleClassroom 及び Teams を活用した授業の実施と活用検討、そのことのシラバスへの記載	■1：従来は紙媒体での提出が多かったレポートをフォーム等での提出に置き換えると共に、デジタルプレゼンテーションの機会を増やした。また、配布資料もコピーせずグーグルドライブに掲載し、閲覧してもらうようにした。ICTの利用は進んだが、全学的にみると進捗状況に差がある。 ■2：授業で使用する資料などの共有、連絡についてもパソコン上のツールを活用した。情報の発信側からシステムの利用が進んだが、学生が利用していない状況も散見される。
・学習成果を量的・質的データに基づき評価する仕組みを充実させる必要がある。	教学マネジメント会議活動計画 ■学習成果に関する共通認識に基づいて、学修成果の測定・評価方法について検討する	学修成果に関する共通認識に基づいて、学修成果の測定・評価方法について、IR情報を整理した。
	・Ⅲ管理運営＞10 調査資料に基づく教育内容・方法の改善＞①調査資料に基づく教育内容・方法の改善＞a) 調査資料に基づく教育内容・方法の改善 ■IRデータ活用の仕組みの構築と、データ分析結果を用いた改善策の提案	IRデータ及び活用の仕方について調査を行い、IRデータの整理、管理について検討中である。また、IRデータの分析結果については、FD・SD研修会にて教育活動等へ活用できるように報告した。
・ポートフォリオ等の評価ツールの開発も推進する必要がある。	【志学館未来計画 2022-2027】 ・Ⅰ教育研究活動＞3 学びの可視化に基づく教育方法の検証＞①学びの可視化の検証＞a) ポート	学内ポートフォリオについて情報収集を行い、現在ある仕組みの中で実施が可能かについて今後検討するための方向性を確認

	フォリオの開発 ■ポートフォリオに関する情報収集、履修カルテ等の検証	した。履修カルテについては、該当する学科専攻で適宜見直しを行いながら活用を進めている。
・複数の免許・資格取得の実現と学習量の確保の両立についてさらに検討する必要がある。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・ I 教育研究活動＞3 学びの可視化に基づく教育方法の検証＞②適切な学習量の検証＞a) 複数免許・資格取得と学習量の確保の検討 ■学生の学びの充実を図るために、事前学習などの提示や振り返りにおける細やかな指導など FD 研修等を通して周知する。	学科からの意見収集をもとに、学生の学びを支えるための授業改善の方法について FD 研修会において検討を行った。その中で、授業の振り返りや改善点の整備に役立ついくつかの実践例を共有し、教員間で授業設計を見直す視点の共通理解を図ることができた。学習量そのものの査定や検証には至っていないものの、授業改善に向けた基盤づくりを進められたことは、今後、事前・事後学習の提示方法や学習量の適切性を検討していく上での一助となった。
・教養教育については、現代社会の課題に対応するような授業の充実が必要である。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・ I 教育研究活動＞2 教育課程の検証＞②教養教育の検証＞a) 学生や社会のニーズに沿った教養教育の改善 ■リベラルアーツ教育等の検討	データサイエンス科目の導入について、数理・データサイエンス AI 推進委員会と連携しながら検討を行った。「データサイエンス概論（仮称）」の令和 9 年度導入に向けて継続検討し、それに伴い一般教養全体の検討を進める。
・卒業後評価への取り組みの充実が必要である。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・ I 教育研究活動＞3 学びの可視化に基づく教育方法の検証＞③アセスメント・ポリシーの着実な遂行＞b) 卒業後評価方法の構築（卒業生・事業所） ■卒業生在籍事業所等へのニーズ調査アンケートの実施と、その結果報告のアセスメント報告への反映	卒業生ニーズ調査の結果は、アセスメント報告書の DP の検証に反映させた。
【Ⅱ-B 学生支援】		
・基礎学力が不足する学生に対する支援を短大組織としてより手厚くする必	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅱ 学生支援＞1 多様な学生に対する支援の充実＞①多様な学生	■1：アセスメントデータをサイボウズで共有させることにより、FD 及び IR 情報をもとに教

要性が今後は一層高まると考えられ、その体制の構築を図る課題が残されている。	に対する支援の充実>a)基礎学力が不足する学生への支援の充実 ■1:FDやIR等と連携した学力の実態把握及び教員への周知と、その結果をもとにした教育課程の見直しのための検討 ■2:Unipa プロファイル機能を用いた個別指導の実施とその結果をもとにした教育課程への見直しへの検討	育課程の編成ができるよう整備された。各学科はデータをもとに実態把握を踏まえた教育課程の編成を行った。次年度も同様に実態把握をした上での編成を行う(次年度より活動計画へ移行) ■2:個別指導の際に修学支援につながるために学習支援相談員の同席を試行した。その効果を今後検証し、教育課程の見直しにどのように反映させるかを具体的に検討していく。
・学習成果の獲得状況データを反映した支援方策の構築が望まれる。	【志学館未来計画 2022-2027】 ・Ⅲ管理運営>4 FD・SDの推進>①FD・SDの推進と学内研修体制の充実>a)学習成果の修得を意識した授業実施のためのFD活動の充実 ■学科主体で取り組むこととなっていることから、学科より提出された問題点などエビデンスを残すと共に、共通の問題点などについては必要に応じてFD研修会などで検討する。	【I-C 内部質保証】a)参照
・学生が主体的に参画する活動としてのスポレク祭や社会人学生支援としての交流会などを令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のために中止した。交流の場が特に新入生にとっての大きな環境移行期である新学期に今後も従来の形式で実施できない場合は、新たな手段を検討する必要がある。	学生委員会活動計画 ・学友会のレクリエーション・紫苑祭等の活動に関して支援を行う	学友会支援を毎回定例会議の議事にあげ、組織のあり方検討やスポレク祭、紫苑祭、おはら祭等についての学友会意向や準備状況の把握と支援を行い、教職員全体に対しても支援の呼びかけを行った。学友会の話し合いに委員長が臨席し、教職員組織と橋渡しを行なった。学友会と学長との懇談会を復活させ、委員も陪席した。
・就職のための資格取得、就職試験対策や編入学支援に関しては、担当部署の重	【志学館未来計画 2022-2027】 ・Ⅱ学生支援>5進路支援体制の充実>①効果的な進路支援体制	■2022年からの計画の反省を踏まえた支援方針として、より実効性の高い支援計画を推進し

複等があり、短大組織としての支援の一貫性に課題がある。	の構築>a)教員と職員の分業・協力体制の構築 ■新たな支援方針に基づく支援計画の遂行及び効果検証の実施	た。編入支援体制の強化、各学科とキャリアセンターでの就職ガイダンスの分担明確化などが実施された。
【Ⅲ-A 人的資源】		
・教員が自分の担当科目において学習成果の獲得を意識して授業を実施できるよう、FD活動を工夫する。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅲ管理運営>4 FD・SDの推進>①FD・SDの推進と学内研修体制の充実>a)学習成果の修得を意識した授業実施のためのFD活動の充実 ■学科主体で取り組むこととなっていることから、学科より提出された問題点などエビデンスを残すと共に、共通の問題点などについては必要に応じてFD研修会などで検討する。	【Ⅰ-C 内部質保証】a)参照
・また、令和2年度に設置したFD・SD委員会を中心に、教員と職員の連携強化を図る。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅲ管理運営>5 ガバナンスの充実>①教職協働体制の推進>a)教員と職員の連携強化 ■短大における現状と諸問題に対する改善	近年、学生支援の内容が多様化している現状を踏まえ、今年度合理的配慮に関する研修を実施し、教職員の基本的理解の向上に取り組んだ。あわせて、より適切な学生支援につなげるため、今後は日常的な情報共有や連携の在り方についても改善の余地があると認識している。
【Ⅲ-B 物的資源】		
・火災・地震対策、防犯対策のための訓練について、万が一の災害時に備え、コロナ禍においても十分な実効性のある方法を検討していくことが今後の課題である。 ・地震・津波・桜島大規模噴火対策の充実が課題である。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅲ管理運営>6 危機管理体制の充実と高度化>①危機管理体制の充実と高度化>b)防火・防災、地震等の災害発生時の対応の検討と計画 ■災害時の具体的な情報収集、連絡、指示方法の確認と周知、防災訓練（AED講習）の実施	5月に防火・防災避難訓練を実施し、2月に学生、教職員参加のAED講習を実施した。災害時の情報収集、連絡、指示方法について、リスク管理マニュアルの作成に向けて作業が進んでいる。
・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターネット通信を利用する機会が格段に増した	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅲ管理運営>6 危機管理体制の充実と高度化>①危機管理体制の充実と高度化>	1月に情報セキュリティに関するコンプライアンス研修を行った。近年被害事例が増しているランサムウェアに対する警戒告

め、情報ネットワークに関する学内の規程整備も含め、情報セキュリティ対策の一層の充実を図る。	a) 情報セキュリティ対策の充実 ■コンプライアンスにおけるセキュリティ対策の周知徹底	知などを行った。
・校地と校舎のバリアフリー対応について、今後一層の充実を図る。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅱ学生支援＞6 安全かつエコロジカルな機能性の高い施設・設備の整備＞②バリアフリー化の推進＞a) バリアフリー対応についての充実 ■バリアフリー環境の点検と改善	定期的にバリアフリー環境の点検を行い、予算内で優先順位を決めて改善を図った。
【Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源】		
・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面授業の代替として実施される遠隔授業を効果的に実施するためのハード面、ソフト面両方の整備と技術の向上を図る。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅰ教育研究活動＞4 ICT 化の推進＞①ICT 環境の充実＞b) 遠隔授業実施のためのハード面の充実、および②学生・教職員の ICT スキル向上 ■①引き続き教育環境を慈雨実に向けたシステム、ハードウェアの調査検討を行う。 ■②学生のアンケート調査を実施し、学生からみた問題点や課題を抽出し、教育課程見直しのための資料とする。	①本学に適したシステム、ハードウェアの調査検討としての BYOD の運用を開始した。全学生が授業でパソコンを利用できる状況になったが、教職員ともに必ずしも効率的な利用ができていたとは言えない状況である。 ②本年度は、学生及び教職員の ICT スキル向上に向けた状況把握や支援方法の検討を進めた。学生については授業内での端末活用状況や学習支援のニーズを確認し、必要に応じた指導や情報提供を検討した。教職員についても ICT ツールの活用状況を把握し、個別相談や研修での情報共有を検討したが、本年度は全体研修の実施には至らなかった。以上より、計画の一部は未実施であるものの、学生・教職員双方のスキル向上に向けた検討は概ね行えたものと評価する。
	・Ⅱ学生支援＞3 学習環境の充実＞①ICT 環境の充実＞a) ICT 端末および環境の充実	【Ⅱ-A 教育課程】 参照
【Ⅲ-D 財的資源】		

・法人全体の教育活動収入における学生納付金収入は安定推移しているが、補助金収入が減少傾向にある。バランスの取れた収入構成とするために、今後の鹿児島県の18歳人口・大学進学率等の推移を見極めた適切な定員管理を行うとともに、教育の質向上、修学・就職支援の充実及び学生満足度を高めるために、教育研究経費、教育環境・施設整備等への予算配分の拡大を積極的に行っていく。	【志學館未来計画 2022-2027】 [法人] ・Ⅰ経営力の向上＞3 定量的目標に基づく財政基盤の維持・向上	■適確な予算編成のもと月次予算の執行管理を徹底し、可能な限り補助金対象事業の申請を行い、KPI 目標の全項目を達成した。 ①経常収支差額比率 (目標) 4.0%以上 (実績) 3.3% ②教育研究経費比率 (目標) 29.5%以上 (実績) 33.2% ③管理経費比率 (目標) 6.5%以下 (実績) 6.8% ④人件費比率 (目標) 60.0%以下 (実績) 56.6% ■大学・短大の修学支援新制度と学園特待制度における奨学金と入学者数の関連分析のもと、費用対効果を検証し、制度の継続性を確認した。
・競争的外部資金の獲得や寄付金額の増強などの学生納付金以外の収入を安定的に確保できる体制を構築していく。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅰ教育研究活動＞6 研究活動の充実＞①外部研究資金獲得の促進＞a) 外部研究資金獲得の促進 ・Ⅲ管理運営＞9 私学助成補助金等の獲得推進と教育施設の充実＞①私学助成補助金等の獲得推進と教育施設の充実＞a) 私学助成補助金等の獲得推進と教育施設の充実 ■補助金獲得条件のチェックと充足	■私立大学等改革総合支援事業の申請内容について教授会で共有し、次回申請に向けて、獲得条件等のチェックを詳細に行った。 また、年間の外部資金申請数を5件以上という数値目標を掲げ獲得の推進を図り、令和7年度は7件の申請が行われた。
・入学定員充足率及び収容定員充足率の向上を図る。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・Ⅳ学生受入＞2 入学定員の充足	外部から得た情報を分析し、入試区分の改善や学生募集・広報の強化を図ったことにより、入学定員充足率及び収容定員充足率が向上した。
【Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ】		

・教育環境の ICT 化の促進は、学園全体としても課題である。新型コロナウイルス感染拡大により遠隔授業はじめウェブ上で学生とコミュニケーションをとる機会が増加した。志學館未来計画で ICT の推進を掲げており、来年度新たに策定する長期計画においても、コロナ禍という状況下というだけでなく、建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」の具現化や教育の質の担保、教育機会の公平性という観点から、ICT 化の促進をもちこむ必要がある。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・ I 教育研究活動＞4 ICT 化の推進＞①ICT 環境の充実、および②学生・教職員の ICT スキル向上 ■1. 学生に対して BYOD に関する調査を実施し、課題を探ると共に環境面での改善も図ると共に、教職員に対しては、Classroom などの使用法に関する講習会を実施して行う。 ・ II 学生支援＞3 学習環境の充実＞①ICT 環境の充実＞a) ICT 端末および環境の充実 ■①引き続き教育環境を充実に向けたシステム、ハードウェアの調査検討を行う。 ■②学生へのアンケート調査を実施し、学生からみた問題点や課題を抽出し、教育課程見直しのための資料とする。	■1. 【II-A 教育課程】 参照 ■①②【III-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源】参照)
【IV-B 学長のリーダーシップ】		
・短期大学の向上・充実に向けて教学運営体制の合理化を図るべく、改革を行ったが、その効果や課題を検証し、改善を図る必要がある。	【志學館未来計画 2022-2027】 ・ III 管理運営＞3 組織体制の検証＞①組織体制の検証＞b) 教学運営体制の検証・改善 ■IR 情報を活用して教育課程の適切性の検証と教育改善を毎年度行うための PDCA サイクルの確立	IR 情報の活用してアセスメント報告書を作成し、それを教育課程の見直しに活用する PDCA サイクルを確立した。

「志學館未来計画 2022-2027」の次の計画を策定するのが 2027（令和 9）年度、4 巡目の認証評価受審は 2028（令和 10）年度となるため、次回の認証評価受審時は、令和 3 年度に抽出した課題の取り組み状況（結果）を報告書に記載することとなる。建学の精神のもと、教育の質保証や環境充実に向けて各課題に取り組みたい。